

製品名: TACC3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18601**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	TACC3
別名	TACC3; ERIC1; Transforming acidic coiled-coil-containing protein 3; ERIC-1
遺伝子 ID	10460.0
SwissProt ID	Q9Y6A5
免疫原	抗血清はヒト TACC3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 789-838

背景

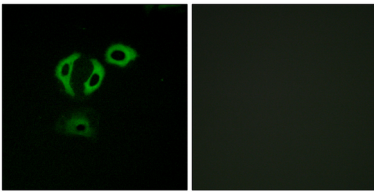
この遺伝子は、形質転換酸性コイルタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、有糸分裂紡錘体の安定化に役割を果たす可能性のあるモータースピンドルタンパク質です。このタンパク質は、特定の癌細胞の増殖と分化

にも役割を果たす可能性があります。[RefSeq提供、2011年11月],機能: 核と中心体の微小管依存性カップリングに役割を果たします。神経前駆細胞の中心体を介した細胞分裂間核移動 (INM) を制御するプロセスに関与しています (類似性による)。細胞増殖および分化の制御に関与している可能性があります。癌に寄与する可能性があります。誘導: 様々な癌細胞株でアップレギュレーションされています。類似性: TACCファミリーに属します。サブユニット: 微小管と相互作用します。CCDC100/CEP120と相互作用します。コイルドコイルC末端領域は、AH受容体核移行タンパク質 (ARNT) および ARNT2 と相互作用する (類似性による)。GCN5L2 および PCAF とも相互作用する。

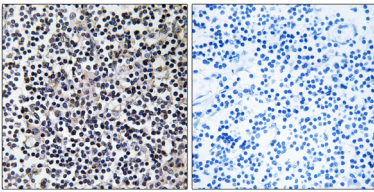
研究分野

細胞生物学

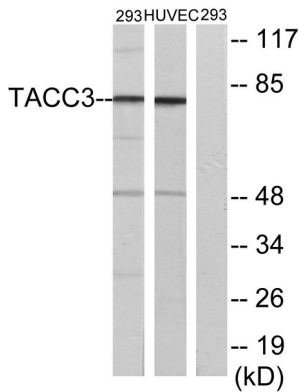
画像データ



TACC3 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



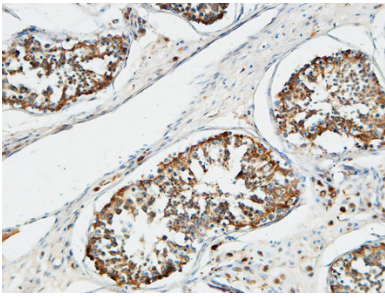
TACC3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



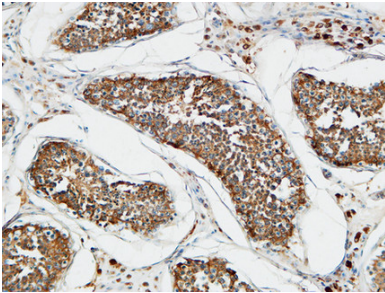
TACC3 抗体を用いた 293 細胞および HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



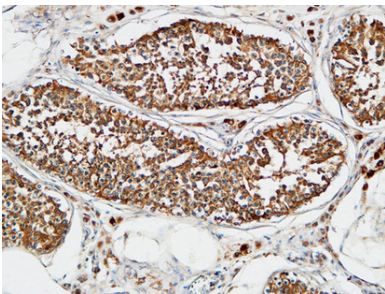
TACC3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト精巢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。